

# 海外移動教室 中国吟詩行 (北京の5つの世界遺産と吟詩交流)

撮友会  
岳野恍輔

## 第1日目 5月16日(火)

関西空港国際線出発搭乗ゲート横で、山口華雋団長の「結団式」の挨拶で、今回の移動教室は首都師範大学や北京小・中学校の熱烈な交流希望等の話がありました。いよいよ中国吟詩行のスタートです。

関西空港から北京空港まで、時差の関係で約4時間(実時間約3時間)です。到着した北京空港は、我々が心配したPM2.5(大気中に浮遊する $2.5\mu\text{m}$ 以下の微粒子の物質)の環境は全く無く、青空が見える景色にはびっくりしました。青空が見える景色の原因は前日まで開催された「一带一路」をテーマで、陸と海のシルクロードを軸のアジアと欧州を結び、沿線国のインフラ整備や貿易の活性化を目指す、国際会議(世界130カ国から1,500人が参加)

の影響のためでした。

北京の街は、さすが中国の首都たる近代的超高層ビルの街並みと、伝統的な低層街並が融合する都市です。かつての自転車洪水のイメージはまったくありませんでした。

取りあえず北京空港到着後、専用バスで高速道路(北京空港からの車線は無料で、空港行きの車線は有料)を、約40分走りレストランで夕食となりました。

夕食後、ホテルに到着し明日からの、研修・交流に備えることとしました。

## 第2日目 5月17日(水)

ホテルを出発し、一路、世界遺産「故宮博物院(紫禁城)」を見学するために天安門広場前の駐車場から、広場への入場の改札を受け、天安門広場に入り

される。

「故宮」は、紫禁城と喚ばれた世界最大の宮殿です。

建設時期は、明の時代の1421年で、20世紀清朝滅亡歴代皇帝が暮らす居住空間であり、政治の中心でした。太和門をくぐると、そこにあるのは広大すぎる前庭があり、皇帝からの指示や命令等重要な国事が行われた広



天安門広場から故宮への地下道

また。天安門広場を横断し、広場前の広い道路の地下道をくぐり、故宮の入り口を入るとすぐに見える、巨大な構造物の太和門に圧倒



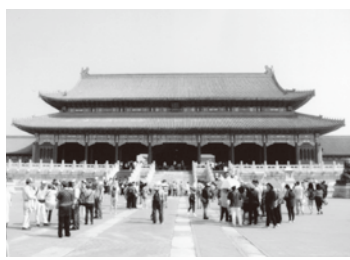
天安門広場

ました。天安門広場を横断し、広場前の広い道路の地下道をくぐり、故宮の入り口を入るとすぐに見える、巨大な構造物の太和門に圧倒

場です。(清朝最後の皇帝を描いた映画「ラストエンペラー」ロケ地の舞台)

広場中心にある、「太和殿」は数度にわたり焼失し、現在の建物は清の時代1695年に再建されたものです。白大理石で作られた3段の基台うえに建ち、オレンジに輝く溜璃瓦や、外壁の施された極彩色の装飾の美しさ、大きさは故宮の象徴する建築物です。

太和殿の内部には「宝座」と呼ばれている王座で、歴代の皇帝が座っていました。王座真上の天井には、「軒轅鏡」の銅の球が吊るされている。



太和殿



太和殿を見学し、中和殿、保和殿とくぐり幾つかの門・殿や宮をくぐりやつと故宮の出口である神武門に到着しました。実にくぐり抜けるだけで約2時間かかります。いくつかのテーマ館の見学、重要文化財を拝見すると、まさに一日は係る行程ですね。

故宮の四隅を守る角楼を確認しながら、一同、次の見学地である1998年世界遺産登録の「頤和園」に到着しました。

「頤和園」前身は精漪園であり、17



角楼

50年崇慶皇太后の還暦を祝い息子の乾隆帝が、西湖掘削と西山、玉泉山、寿安山の造営、更に西湖、高水湖、養水湖を貯水池にした。1884年から1895年

池は我々日本人には考えられない超大規模ものでした。

しかし、再建は経費の問題により前山建築群に限定された。その後庭園は再建、修復され頤和園と改称され、1953年以降公園として解放され、現在に至っている。

頤和園で、午前中の世界遺産見学は、全て終了しました。いよいよ、今回の最大イベントである北京の日中文化交流会会場がある、首都師範大学に向かうこととなりました。

#### 「日中文化交流」

首都師範大学に午後3時に到着、校舎の正面入り口には大きな歓迎の垂れ幕が掲げられて、大歓迎を受けました。



校舎入口

会場の控え室に案内され一同緊張の趣で会場控え室に入りました。会場は、中国

文化交流団のリハーサルの真最中でした。我々も急ぎ出演者は、それぞれの衣装（男性吟者は袴・女性吟者着物・舞者は袴等）に着替えるともに、中国人・日本人司会（中国語の日本語司会は、日本からの留学生）によりセレモニーが午後4時からスタートしました。

# 「式典」

- 一 首都師範大学中国国語教育学院長  
ご挨拶
- 一 首都師範大学付属回龍観育新学長  
ご挨拶
- 一 日本関西吟詩文化協会会長ご挨拶  
式典に続いて、中国と日本交互に吟・踊りの交流日中交友詩歌吟唱交流のスタートです。



首都師範大学長と山口会長交流の握手

# 「交流」

日本側交流プログラムは、

- 一 公益社団法人関西吟詩文化協会の紹介

・日本に於ける詩吟の歴史、日本の吟界と関西吟詩文化協会の現状

・日本の吟詠方法の指導

- 1. 早発白帝城 李白

- 2. 楓橋夜泊 張繼

- 3. 吟・南雲鷹勝 舞・南雲緑詠

- 4. 荒城月 水野豊洲

- 5. 吟・是久誠蓉 米田秋澄

- 6. 新武妹孝

- 7. 舞・森 婕孝

- 8. 峨眉山月歌 李白

- 9. 吟・奥山紅雋 舞・末延祥雋

- 10. 涼洲詞 王翰

- 11. 吟・山口華雋 王維

- 12. 送元二使安西 王維

- 13. 吟・中島菖豊

- 14. 送元二使安西 王維

- 15. 中国語吟・森口雪孝先生先導に

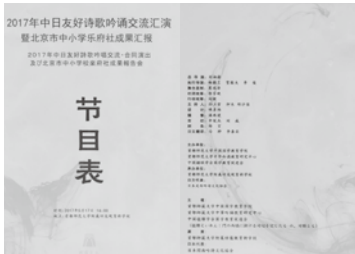
より全員合吟

プログラム（日中プログラム原文）別紙参照

中国と日本の吟と舞のそれぞれ交流が終わり、日本の山口華雋団長に中国漢詩書等の贈呈を受けました。また、日中双方から「お土産」の交換があり、最後に日中合同の記念撮影をして、3時間に渡る交流会を終了しました。







日中プログラム（原文）



### 第3日目 5月18日（木） 「万里の長城」

昨日の日中交流を思いながら、ホテルから約2時間かけて、1987年に登録された世界遺産万里之長城に到着です。

万里の長城は、北方の異民族が侵攻して来るのを、迎撃するために秦代の紀元前214年に始皇帝によって建設された。その後いくつかの王朝によって修築と移転が繰り返され、現存の「万里の長城」の大部分は明代に作られたものです。現存する人工壁の延長は6259.6 kmです。

始皇帝による建設以降においては、



万里長城入口前

泰・前漢・北魏・北齊・隋・金・明は大規模な長城建設を行ったのに対し、後漢・魏・晋・五湖・一六国の諸王朝・唐・五代の

各王朝・宋・元・清は長城防衛をほとんど行わなかったそうです。なお、「宇宙から肉眼で見える唯一の建造物」といわれている。

気温35度前後の中、私達、中年が城壁を登頂するのは、無理感が漂う。しかし、「長城 胡曾」(関西吟詩の教本にはありません) 合吟すると、いつもと違う感覚(オーケストラ)のような、さわやかで最高の気持ちで吟ずることが出来ました。(合吟の写真がないのが残念です。)

万里の長城は、膨大な月日と膨大な人々の努力と犠牲により、人類の歴史上重要な時代を例証する、優れた超建造物でした。



万里長城



万里長城最高上登城者

## 第4日目 5月19日(金)

### 「天壇公園」

天壇公園は1998年世界遺産登録された、明清代の皇帝が天に対して祭祀を行う場所である。形は天円地方の



天壇祈殿に通ずる通路(市民の憩いの場)



天壇祈殿

宇宙観に則り円形である。

天壇祈殿でもっとも有名な建造物で直径32m、高さ38m、25本の柱で支えられる祭壇で、人類の創造的才能を見事に表現している。

### 「文天祥記念館」

天壇公園を後に、文天祥記念館を見学。文天祥は、張世傑、陸秀夫と並ぶ南宋の三忠臣の一人である。「過零丁洋」の詩は、「死なない人間はいない。忠誠を尽くして歴史を光照らしているのだ」

と言うような内容である。

一同「過零丁洋 文天祥」を合吟する。(合吟の写真がないのは残念です) 日本では、文天祥の「正気の歌」は、江戸時代中期の幕末の志士に愛謡され、藤田東湖、吉田松陰などは自作の「正気の歌」を作っている。

いよいよ最後の見学地である「孔子廟」の見学である。

### 「孔子廟」

北京最大の孔子を祀る廟である。現在は首都博物館であり、儒教の最高学府・国子監とともに中国文化の根幹をなしてきた。建築物は創建の元時代の、風格を保っている。

千師門、大成門、大成殿は孔子廟の

中心となり周囲に多くの配殿が取り囲んでいる。



首都博物館入口

境内の樹齢600年あまりになつた柏樹木は



大成殿内部



伝統文化継承風景

圧倒的である。廟の周辺道路は、ごみごみとした胡同的风景で、なかなか風情があります。

最後の見学も午前中で終わり、レストランで最後の昼食となりました。

第1日目〜第4日目とも、北京は30度以上の暑さでしたが、濃密な海外移動教室でした。

北京空港から関西空港に夜8時に無事到着しました。最後は出国ゲート前で山内邦照副団長による「解団式」により散会をしました。